

## 記憶に対するbenzodiazepine誘導體diazepamの影響

著者	平松 博
雑誌名	博士学位論文要旨 論文内容の要旨および論文審査結果の要旨 / 金沢大学大学院医学研究科
巻	平成2年7月
ページ	5
発行年	1990-07-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/14756">http://hdl.handle.net/2297/14756</a>

学位授与番号	医博甲第 910 号
学位授与年月日	平成元年 5 月 31 日
氏 名	平 松 博
学位論文題目	記憶に対する benzodiazepine 誘導体 diazepam の影響

論文審査委員	主 査	山 口 成 良
	副 査	高 守 正 治
		正 印 達

### 内容の要旨および審査の結果の要旨

Benzodiazepine誘導体による覚度や注意、記憶に対する影響について種々の報告がみられるが、統一した見解が得られていない。また、記憶、保持、再生の記憶過程のどこに影響するかについてもまだ十分に解明されていない。そこで本研究では、benzodiazepine誘導体である diazepam の近時記憶に対する影響について主として検討した。

実験 1 では、対象は正常男子 20 名であり、10 名に diazepam 0.2mg/kg を静脈内投与し、他の 10 名に生理食塩水 2 ml を静脈内投与し、15 分後より、点知覚検査、語音知覚検査、線分知覚検査、対語記憶における自由再生、手掛かり再生と再認検査、図形記憶における自由再生と再認検査、無意味語記憶での自由再生と再認検査を行った。

実験 2 では、対象は正常男子 16 名であり、8 名に diazepam 0.2mg/kg を静脈内投与し、他の 8 名に生理食塩水 2 ml を静脈内投与し、20 分後より、図形検査と単語検査を行った。図形検査では、図形の 5 枚提示後の即時再生と 30 秒後の再生、30 秒から 60 秒後に計算を行わせた後の再生の、3 種の検査を行った。単語検査では、単語 10 個を口頭提示し、即時再生と 30 秒後の再生、30 秒後から 60 秒後に計算を行わせた後の再生の、3 種の検査を行った。

結果は、実験 1 の点知覚検査、語音知覚検査、線分知覚検査では、diazepam の有意な影響は認められなかった。対語の自由再生と手掛かり再生で diazepam での成績の有意な低下を認め、自由再生でより強い影響が認められた。対語の再認での diazepam の影響は少なく、図形の自由再生と再認で diazepam での成績の有意な低下を認めた。無意味語の自由再生と再認では薬物の有意な影響はみられなかった。

実験 2 では図形検査と単語検査において、diazepam 投与群が有意に成績が悪かった。第 1 の検査と第 2 の検査の成績差、及び第 2 の検査と第 3 の検査の成績差としての忘却量を比較すると、図形検査及び単語検査で、両群間に有意の差を認めなかった。

これらの結果より、diazepam は覚度や注意に対する影響は少ないと考えられるが、視覚的記憶と聴覚的記憶の両方に影響を及ぼし、視覚的記憶では自由再生と再認に影響を及ぼし、聴覚的記憶では手掛かり再生よりも、自由再生に強く影響を及ぼすと考えられる。又、実験 2 の検査より diazepam 投与群が有意に成績が悪いことと、忘却量では差が認められないことより、diazepam は近時記憶における記憶容量を減少させるが、保持に対する影響は少ないと考えられた。

本研究は、健忘症を惹起するなど最近話題になっている benzodiazepine 誘導体について、種々の記憶検査法を駆使して検討し、近時記憶に対する影響を明らかにしたものであり、臨床精神薬理学ならびに精神医学に寄与する論文と評価された。